

幕末明治の英国外交官アーネスト・サトウの日記から読み解く

# もうひとつの音楽史

続編

主催 **ムジカ工房**

〒569-1031 大阪府高槻市松が丘2-7-22  
TEL:072-689-0727 FAX:072-687-0314  
URL: www.h4.dion.ne.jp/~musica

## 第2回 日本洋楽事始め～帝都東京篇

解説・司会: 北村 智恵 企画・資料/協力: 橋本 喜郎

演奏: 雨田 一孝 (チェロ) 雨田万由美 (ピアノ)  
上野 洋子 (ソプラノ) 石井 聡子 (ヴァイオリン)  
望月 優 (ピアノ)



アーネスト・サトウ  
Ernest Satow (写真: 横浜開港資料館 所蔵)

### Program



ピエルネ	セレナード op.7
ベンデル	ジュネーヴ湖 より
メンデルスゾーン	無言歌集 より (ピアノ三重奏編曲版)
ボイエルデュー	歌劇「白衣の婦人」より 序曲
シューベルト	歌曲「死と乙女」 D531
ブラームス	歌曲「五月の夜」 op.43-2
ベートーヴェン	ピアノ三重奏曲 第3番 ハ短調 op.1-3 第1楽章



日時: 2013年 3月 29日 (金) 18:00 開場

18:30 プレトーク「鹿鳴館時代に至る洋楽受容史」  
(対談 北村智恵 × 橋本喜郎)

19:00 コンサート開演

会場: 大阪府中央公会堂 小集会室

参加費: 4,000円(資料込) 当日: 4,500円

※ 収益金のすべてを、東日本大震災被災児のための義援金と致します。

申込: ムジカ工房 TEL 072-689-0727 FAX 072-687-0314  
E-mail musica-kobo@live.jp

## 英国外交官アーネスト・サトウと帝都東京の音楽事情

1862年9月横浜の英国公使館に通訳生として着任後、西郷や伊藤、後藤などの勤皇の志士たちと親密な関係を築き、「英国策論」を著して維新回天に貢献したサトウは、1882年末に日本を離れ、シャム総領事、ウルクアイ弁理公使、モロッコ全権公使を歴任した後、1895年全権公使として日本に再赴任しました。サトウ不在の12年間に明治政府は帝国憲法を發布し、帝国議会を開設するなど、近代国家としての体裁を整え始めていましたが、懸案だった不平等条約の改正は領事裁判権の撤廃を成し遂げたものの道半ば、また、日清戦争に勝利はしましたが三国干渉への対応には苦慮しました。欧米列強に比肩する不羈独立国家への道程はなお険しかったと言えます。そのために、あらゆる分野で一等国を目指そうとして、鹿鳴館に代表される欧化政策を急速に推し進めました。国内外から猿真似と酷評されても、いわゆる「お雇い外国人」の指導により、模倣から自立へと、次第に成長を遂げて行きました。西洋音楽の受容についても、音楽教育家や職人的音楽家の指導による、情操を育むための教育音楽から、当時の一流演奏家であったデトリッヒやケーベル、ユンケルなどの招聘に伴い、純音楽(=芸術音楽)を希求する流れへと変化して行きました。音楽取調掛は東京音楽学校に昇格、奏楽堂が落成し、鹿鳴館では演奏会というスタイルが定着します。このような時代に来日したサトウは過去に親交のあった明治政府首脳たちに、公使としての立場を超えて、的確な助言や援助を行い、日英の関係強化のため精力的に活動しましたが、その多忙な公務の中にあっても、大好きな音楽への関心を失わず、演奏会に出かけたり、公使館に演奏者を招いたりしていました。今回の「もうひとつの音楽史」では、サトウの日記や彼の友人などが綴った記録から、洋楽受容史に大きな足跡を残したケーベルとユンケルを採り上げ、彼等とその生徒たちの演奏活動をコンサートとして再現し、資料として展示いたします。

解説・司会： 北村 智恵 (音楽学 相愛大学非常勤講師)

企画・資料/協力： 橋本 喜郎 (アーネスト・サトウ研究会)

### 雨田 一孝 (チェロ)

堀川高校音楽科(現、京都市立京都堀川音楽高校)を経て、京都市立芸術大学音楽学部弦楽科卒業。黒沼俊夫、上村昇、林俊昭、五味尚子の各氏に師事。雨田デュオ、井上まゆみトリオ、マイハート四重奏団など、ソロ、アンサンブルにおいて活動中。94年の「雨田一孝、雨田真由美デュオリサイタル」につき青山音楽賞を受賞。青山財団より海外研修費を得て、オーストラリアクィーンズランド音楽院において、デュオリサイタルを開催。同音楽院より、マスタークラス講師として招かれる。現在、京都市立芸術大学音楽学部、京都堀川音楽高校、および同志社女子大学学芸学部音楽科非常勤講師。

### 上野 洋子 (ソプラノ)

京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立堀川音楽高等学校)卒業。京都市立芸術大学音楽学部卒業。同大学院音楽研究科修了。京都明德高等学校にて一年間非常勤講師として勤務。1998年渡欧。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科入学、2001年6月に卒業するまでの間、メゾ・ソプラノとして活動。同年5月から第一ソプラノとしてウィーン国立オペラ座の専属合唱団に入団。国立オペラ座のソリストとしてはWagner「ローエングリン」の小姓の一人、Verdi「マクベス」の幻影III(プレミエ出演)など、又ザルツブルク音楽祭では07年Weber「魔弾の射手」にて花嫁付添いの乙女の一人、10年Strauss「エレクトラ」侍女の一人を務めた。01年ウィーンにてリーダー・アーベント(ピアノ・Walter Moore氏)、09年、11年大阪にてソプラノ・リサイタル(ピアノ・三ツ石潤司氏)。声楽を正木真理、三井ツヤ子、Michaela Ungreanu、Heidi Brunnerの各氏に、リート解釈をWalter Moore氏に師事。2010年10月より京都市立芸術大学音楽学部専任講師。

### 雨田 万由美 (ピアノ)

京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。園田高弘、田隅靖子、斉藤隆子、荒憲一、雨田のぶ子の各氏に師事。室内楽を、林俊昭、林由佳子の各氏に師事。雨田一孝とのデュオの他、オーケストラとの競演、ピアノデュオリサイタルなど、ソロ、室内楽に於いて活動中。90年より定期的に、パロックザールにて、デュオ雨田リサイタルを開催。94年のリサイタルに対し、青山音楽賞を受賞。現在、京都文教短期大学非常勤講師。

### 石井 聡子 (ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始める。相愛高校音楽科卒業。桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。同大学院研究科修了。第11回高槻音楽コンクール第2位。全日本演奏家協会ベストプレイヤーズコンクール優秀賞受賞(デュオ)。関西フィルハーモニー管弦楽団、ソフィアフィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルグ・パレー & コングレスオーケストラ、ブルガリア国立プレーヴェン交響楽団等、国内外のオーケストラと多数共演。これまでに鷲見健彰、曾我部千恵子、里屋智佳子、リチャード・ディーキン各氏に師事。

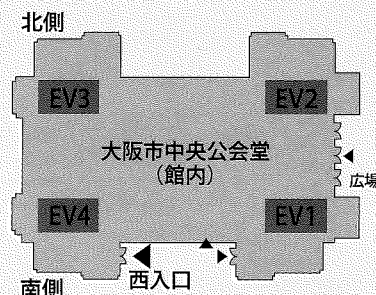
### 望月 優 (ピアノ)

相愛大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業。同大学卒業演奏会に出演。在学中、07年ポーランド・ワルシャワショパンアカデミー夏期講習に参加、修了演奏会に出演。第28回高槻市新人演奏会、高槻音楽家協会主催新人演奏会、第48回なにわ芸術祭「新人演奏家競演会」、ショパン協会関西支部主催「推薦コンサート」等に出演。また、ムジカ工房主催「希望コンサート みんなの音楽」にて、朗読と自作ピアノ曲のコラボレーションを行うなど、室内楽の共演やチャリティ・コンサートにおける伴奏も多い。ピアノは北村智恵、下田幸二、作曲は十河陽一の各氏に師事。

会場：  
大阪市中央公会堂  
〒530-0005  
大阪市北区中之島  
1丁目1番27号  
TEL 06-6208-2002



- 地下鉄御堂筋線/京阪電鉄「淀屋橋」駅下車 ①番出口 徒歩約5分
- 京阪電鉄中之島線「なにわ橋」駅下車 ①番出口 徒歩約1分
- 市バス「淀屋橋(市役所前)」下車 徒歩約3分 [大阪駅88系・なんば60系]



小集会室へは  
南側の階段を下り、  
B1階左手「西入口」より  
お入り下さい。  
3階会場前に  
受付がございます。